

特別支援学級 音楽科学習指導案

令和元年10月30日（水曜日）第2時限（さざんか2組）

指導者（T1）平賀 真司

（T2）長谷川 義洋

1 単元 曲の盛り上がりを表現しよう

2 指導計画（8時間完了）7／8

時 数	1	2	3	4	5	6	7	8
以下の学習内容を、1チャンク10分程度、1パーツ5分程度に組み合わせて行う（1時間4チャンクまで）								
チャンクの内容	速度の感じに合った表現	楽曲の雰囲気を感じ取った表現	旋律の感じに合った表現	拍の流れやフレーズを感じ取った表現	音楽を形づくっている要素を生かした音楽づくり	反復や変化を感じ取った表現	楽曲の特徴を感じ取った表現	音の重なりや響きを感じ取った表現

3 本時の指導

(1) 目標 曲の盛り上がりを表現する。

(2) 準備 CD、音楽デッキ

(3) 本研究との関わり

本学級の児童は音楽がすきで、音楽が流れると自然に体が動き、楽しんでいる様子が見られる。A児は、音楽が流れると体を速く動かすが、自分にとって気持ちがいいリズムで体を動かしているだけで、音楽を形づくっている要素を感じ取っているとは言えない。

1学期の学習で、音楽を聴いて身体表現をすることによって、速度、拍、反復、音色、リズム、変化を感じ取ることができるようになり、ゲームや歌を通して、自然に呼びかけとこたえができるようになりした。児童は、速度の違いを身体表現だけではなく、楽器の強弱で表現したり、同じ速度の楽曲でも、音色や拍の流れの違いによって楽曲の気分の違いを感じ取り、楽曲によって身体表現の工夫を変えたりするなど、音楽を形づくっている要素を感じ取っている様子が見られた。

2学期の学習では、音階やフレーズを感じ取って身体表現したり、歌ったりする活動を行った。活動の様子から、A児が歌う時は大きな声で歌うことはできているが、強弱をつけて曲の盛り上がり表現することに苦手意識を感じた。強弱については、1学期の実践で、曲の速度の変化をリコーダーの強弱で表現したり、大きな音が聴こえたときには飛び上がって身体表現したりするなど、音の強弱は感じ取っているように思える。

本単元の学習では、旋律の動きを自分で身体表現することや、楽譜を見たり、友達身体表現を観察したりするなどの視覚的支援によって音の強弱を感じ取り、歌唱するときに小さな声を出そうと意識できるようにし、曲の盛り上がり表現できるようにすることを主として進める。学習の進め方は前時までと同じく、単元の学習内容を1時間の授業に1チャンク10分程度、1パーツ5分程度に組み合わせ、8時間かけて達成する。

(4) 指導過程

時間配分	学習活動	指導上の留意点

2分	1 本時の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習内容を児童に伝える。 ○ 4つのチャンクに分ける。
15分	2 3部形式を表現しよう。(反復)(変化)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一つ一つ伝えながら板書し、色分けして囲む。 ○ 「はじめ」「なか」「はじめ」を提示する。 ○ しろくまのジェンガの「はじめ」を一人で「なか」を連なって、「はじめ」に戻ったとき一人で身体表現する。 ○ 「はじめ」「なか」「はじめ」「おわり」を提示する。 ○ ハンガリー舞曲第5番で、曲の感じが変わったとき、身体表現を変えること、また「はじめ」に戻ったら一番初めの身体表現に戻すことを伝える。
15分	3 曲の盛り上がりを表現しよう(旋律)(強弱)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時のハンガリー舞曲第5番をビデオで見て、自分や友達の身体表現を確認する。 ○ 「はじめ」「なか」「はじめ」を意識して身体表現をする。 ○ 「ドレミの歌」に合わせ、身体表現をする ○ 「カエルの合唱」の図形楽譜を配り、旋律の山の強弱をつけて歌う。 ○ 「ふじさん」を歌う。 ○ 旋律の流れを示した図形楽譜のプリントを配り、旋律の高いところ(赤)は音量を大きく、ソの音(緑)は音量を中くらいに、低いところ(青)は音量を小さく歌う
8分	4 旋律の動きを意識しよう(旋律)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室掲示の「こえのものさし・旋律の青は1.隣の人と話をする、旋律の緑は2.グループで話をする、赤は3.教室でみんなに発表する」を参考にして、音の強弱を表現する。 ○ レッツテイクアチャンスの図形楽譜を配る ○ レッツテイクアチャンスを指でなぞりながら歌う。 ○ 音量を大きく歌う部分を、赤の蛍光ペンで塗る。 ○ 強弱を意識して歌う。 ○ 「白鳥」のバイオリンとピアノの同時演奏を聴く。。 ○ 「白鳥」は、はじめにピアノが聴こえて、後からバイオリンが聴こえてくることを確認する(チェロをバイオリンの音源にして作ったもの)。 ○ 机を教室中央に集め、ピアノをリトミックスカーフで表現する児童は先に動き出し、バイオリンを表現する児童は、ピアノを抜かさないように、後から表現する。

※T2は、一人で行うことが難しい児童の支援をする

【レッツテイクアチャンス 旋律の図形楽譜 完成図】

レ・ソ 5 17 ア 4セソス

The image shows ten staves of handwritten musical notation. Each staff begins with a treble clef. The notes are connected by lines and are color-coded: pink, green, and blue. The notation includes various rhythmic values and rests, with some notes enclosed in colored ovals. The overall style is that of a personal musical sketch or a student exercise.